

## 中国海軍の南シナ海埋め立ての目的

漢和防務評論 20141003 (抄訳)

阿部信行

(訳者コメント)

中国海軍は、中国海南省と聯合して南シナ海珊瑚礁の埋立を習近平に上申し許可を得ました。その目的は何か、漢和防務評論誌に関連記事がありましたので紹介します。

漢和誌が入手した埋め立て工事の青写真を見ると、完成した飛行場にはH-6K型爆撃機が描かれていました。このことから中国の狙いは、H-6に長距離巡航ミサイルを搭載し、米国艦隊の南シナ海への接近阻止を狙っているものと考えられます。漢和誌は、南シナ海珊瑚礁の埋立工事は米国の“アジア回帰”“リバランス”戦略に対する中国海軍の重要な布石であると述べています。

**KDR ニュース** バンコク特電：

中国の外交消息筋は次のように述べた：**ADIZ**（防空識別圏）と石油掘削リグの南方移動の狙いは同じである。習近平は海南省と海軍が聯合して上申した南シナ海埋め立て計画を承認した。これは海軍に対する習近平からの大きな贈り物である。同様に事業として海軍及び海南省は巨大な投資資金を得ることになる、と。

また消息筋は：中国海軍は、2つの島で埋め立て工事を行う。要求する総面積はディエゴガルシア島の約2個分（消息筋の話による比喩）の面積である、と述べた。ディエゴガルシア島の陸地面積は27平方KMであり全島が珊瑚礁である。また消息筋は：海軍の南シナ海埋め立て工事は、ディエゴガルシア島の構造から啓発された、と述べた。**KDR**は、中国海軍が海を埋め立てる目的は、米太平洋艦隊がマラッカ海峡から北上するのを阻止し、同艦隊の南シナ海接近を阻止するためである、と考える。或いは、同艦隊が太平洋からセレベス海を通過して南シナ海に進入するのを阻止する。中国海軍は、米軍がオーストラリアに進出するのを極度に警戒している。

**KDR**は、これらの埋め立て工事は飛行場建設のためであり、**H-6K**型長距離爆撃機を配備するためであると考え。根拠は：中国側が最近公開した“南シナ海埋め立て工事研究想像図”に、2機の**H-6**爆撃機がはっきり描かれていたからである。これらの島礁上に**H-6**爆撃機の飛行場を建設する目的は、長距離巡航ミサイルによるオーストラリアの米軍基地攻撃を準備するためである。

中国外交消息筋の上述の証言は、フィリピン国防部の判断の正確さを証明して

いる：すなわち中国は、2つの珊瑚礁上に大規模飛行場の建設を開始したのである。しかもその規模は台湾やフィリピンの想像をはるかに超えている。今のところ、台湾国防部は、中国は赤瓜礁の珊瑚礁上にサッカー場17個分の規模の人工島を造っていると述べている。KDRは建設速度が異常に速いことに気付いた。この速度で建設が進むと、飛行場と基本的付帯設備は2乃至3年以内に完成する可能性がある。

習近平は、自ら2個以上の人工島の建設を許可した。同時にこのような速度で飛行場を建設する動きを見ると、習近平は、南シナ海の島礁紛争でますます強硬な姿勢に出てくるものと見られる。

なぜ2つの珊瑚礁を埋め立てるのか？KDRの基本的な判断は次の通りである：海軍基地と空軍基地を分離する可能性がある。このようにすると、海空軍それぞれが追加投資予算を得られるからである。海軍が建設した飛行場であれば海軍航空部隊の戦闘機及び爆撃機が専用し、空軍用飛行場は別に建設する。中国海空軍は、未だ1つの飛行場を共同使用したことがない。或いは、相当大型の海空軍基地を建設する可能性もある。

南シナ海の埋め立ては、明らかに中国海空軍が米国の“アジア回帰”“リバランス”戦略に対抗するための重要な要素である。

以上